

三宅島ふるさとだより

No. 24

発行日：平成23年9月1日 三宅島ふるさと再生ネットワーク東京事務局

住所：〒173-0005 東京都板橋区仲宿25-6 あすなろ福祉会内 TEL 03(3963)5678 Fax 03(3963)5697

神楽坂青空市

2011年10月2日(日)

三宅島特産販売！！

三宅島ネット会員が上京。皆さまのお越しを心からお待ちしております！

爽やかな秋晴れの日が続いています。

毎年恒例の「神楽坂青空市」のお知らせです。

三宅島から直送された**明日葉、くさや、芋餅、里芋**などを販売します。

また、**明日葉の天ぷらやつみれ汁**の実演販売も行います。

(なくなり次第終了となります。お早めに！！)

◎日 時 平成23年10月2日(日) 12時～6時(小雨決行)

◎場 所 神楽坂商店街内

(大石事務局長携帯 090-4020-5402)

- ・地下鉄東西線神楽坂駅1番出口を出て右手へ
- ・大江戸線牛込神楽坂駅A3出口を出て右、神楽坂上交差点を左折
- ・JR飯田橋駅飯田橋駅のB2a出口から徒歩15分ほど

三浦半島 3つの活断層 震災で動きやすく

政府の地震調査委員会（委員長・阿部勝征東大名誉教授）は11日、東日本大震災の影響で、神奈川県の三浦半島にある3つの活断層帯で地震が起きる可能性が高まつたと発表した。大臣を伴わずに断層がゆっくり震災後、東日本周辺で揺れを伴うと断層がゆっくりはこれらの発生確率自体は明としていた。地震調査委員会はこれらが発生する可能性が高まつたと分析した。

地震調査委「地震の可能性高まる」

震災後の地殻変動で活断層とされる「余効すべり」という現象が起きて力が加わるたまり、断層が動きやすくなつたと判断した。

地震調査委は6月、立川断層帯（東京都立川市周辺）、双葉断層帯（宮城、福島県）、牛伏寺断層帯（長野県松本市周辺）の3つの活断層帯について、地震が発生する可能性が高まつたという見解を示していた。 つたかうか調査する。今後30年以内に地震が発生する確率は、武山が6～11 たのは、三浦半島にある%、衣笠・北武がほぼ0～3%、三浦半島断層群南部（三浦市）の3つの活断層帯。大臣を伴わずに断層がゆっくりはこれらの発生確率自体は明としていた。地震調査委員会はこれらが発生する可能性が高まつたと分析した。 地震調査委「地震の可能性高まる」 震災後の地殻変動で活断層とされる「余効すべり」という現象が起きて力が加わるたまり、断層が動きやすくなつたと判断した。 地震調査委は6月、立川断層帯（東京都立川市周辺）、双葉断層帯（宮城、福島県）、牛伏寺断層帯（長野県松本市周辺）の3つの活断層帯について、地震が発生する可能性が高まつたという見解を示していた。

区長会は6月28日、法の見直しを国に働き掛けるよう石原知事に要望した。

また、半壊も原則支援対象外となるため、23区内は支援を受けられない状況。

要請で区長会は、「都道府県や区市町村」とに対応するのではなく、国が統一的な対応を行ってべき」と述べ、都に対し、国に被災者生活重建支援が合意される。

被災者生活再建支援法によれば、住宅の被害程度に応じて支給する「基礎支援金」と、住宅の再建方法によって支給する「加算支援金」の合計額が支給される。住宅が全壊などは最高300万円

住宅被災への支援を 区長会が知事に要請

2011年3月	事故発生
10月～ 12年1月	冷温停止
14年度初め ～	使用済み核燃料ブ ール内の核燃料棒 取り出し
21年度～	原子炉内の溶融燃 料の取り出し
数十年後	原子炉の解体・撤 去

福島第1、廃炉まで数十年

政府が東京電力福島第一原子力発電所の廃炉作業に向けて検討している工程表の素案が9日、明らかになった。原子炉内に溶融した核燃料を取り出す作業を10年後から始めるにあたっては、必要な技術開発に早急に取り組む。長の呼びかけで東電や経済産業省原水安・保院、原子炉メーカーの関係者が参加した勉強会が作成した。素案では、工程表の素案は、原子炉心溶融した1～3号機

政府が工程表案

の核燃料の取り出しが2021年から開始すると設定した。使用済み核燃料プール内の燃料棒を取り出し、専用の容器に収める作業は14年度初めから実施するとしている。原子炉内の燃料棒は大半が溶けしており、燃料の一部は圧力容器の下部を通り抜け、格納容器にも漏れ出しているとみられており、1979年に起きた米スリーマイル島原発事故でも燃料棒は溶けたまま、取り出しを始めたのは6年後だった。福島第一原発では格納容器そのものが破損するなど、事態はより深刻だ。